

農作業特報

魚津市
魚津市農業技術者協議会

春の土づくり 「いざ、土づくり！美味しい富山米を届けよう！」

① 土壌改良資材や有機物の施用

土壌改良資材を昨秋に散布しなかった場合は耕起前に必ず散布するとともに、堆肥等有機物の施用に努めましょう。

	資材名	施用量(/10a)		資材名	施用量(/10a)
土壌改良資材	粒状ケイカル	200kg	有機物	発酵鶏ふん	90～120kg
	又は 鉄入りシリカパンチF	100～120kg		又は 牛・豚ふん堆肥	1～2t・0.5～1t

*コシヒカリの場合は基肥窒素を1～2kg/10a減肥してください

② 深耕による作土層の拡大

作土が深くなると、根量が増大し、養分の吸収量が増えることで、気象変動に強い健全な稲体になります。春の耕起は、トラクタの速度を落としてゆっくりと行い、**作土の深さを15cm以上（現状より3cm深く）確保**しましょう。

***田直し（あぜぬり、漏水箇所）や農業機械の清掃・点検も忘れずに！**

育苗～田植えの計画

コシヒカリの高温登熟を回避するため、**5月15日を中心とした田植え**を行いましょ。また、育苗日数は播種後20日間を目安に、田植日に合わせた計画的な育苗作業を行いましょ。

【5月15日植えに合わせた育苗作業の目安】

	消毒日	浸種日	催芽日	播種日	搬出日	田植日
温湯消毒済種子	(消毒済)	4/16	4/23	4/25	4/28	5/15
モミガードC水和剤		4/16				

※穂数を確実に確保するため、育苗計画では**栽植密度70株/坪に合わせた必要箱数**を用意しましょう。

種子消毒～播種・出芽

① 比重選

- ・充実の悪い籾や、ばか苗病等の保菌籾を除去する。
比重：うるち1.13（硫安2.6kg/10L）、もち1.08（硫安1.5kg/10L）
※硫安による発芽障害を防ぐため、比重選後は十分に水洗いをする。

「**温湯消毒済種子**」を購入された方へ
直射日光を避け、風通しが良く温度変化の少ない場所で保管してください。また、ねずみの食害に注意してください。

② 消毒 浸種

- 1) 発芽を揃えるために十分に吸水させる。
- 2) 水温10～15℃で7～10日間程度（特に、**浸種初日は水温12.5℃程度に保つ**）
- 3) 水は1～2日毎に交換。また、こまめに芽出し袋の上下入れ替えを行う。
浸種期間の後半は、毎日水を入れ替える。
(浸種積算温度100℃以上が目安：水温×日数=100℃・日以上)

- ・10℃未満では芽の伸びが悪くなりやすく、不均一となります
- ・水温15℃を超えそうな場合は、頻りに水の入れ替えを行いましょ
- ・浸種桶の設置は直射日光を避け、温度変化の少ない場所にしましょ

「モミガードC水和剤」による種子消毒

- ・処理方法…浸種初日に、200倍液に24時間浸漬する
- ・薬液の調整は、少量の水でよく練って糊状にしてから、所定量の水にかく拌しながら溶かす

③ 催芽

30℃で行い、芽の長さは「**ハト胸～2mm程度**」に30℃・1日を基本とするが、芽の伸びに応じて時間調整する。

④ 播種

播種量は、乾籾120g/箱（催芽籾150g、容積200ml）
※播種前に空箱で播種量を確認する。



適正な播種量(目安)
乾籾120g/箱
(催芽籾150g/箱)

⑤ 出芽

育苗器は30℃で2～3日
※育苗器のサーモスタットや温度計を事前に点検する。
・芽の長さが1cmに揃ったら搬出する。

育苗期間の温度管理

育苗期間の気温が高いと、苗は軟弱徒長となりやすく、細菌性病害も発生しやすくなります。ハウス内の温度と水管理に十分注意して下さい。

◆ハウスの温度管理の目安

	緑化（2～3日）	硬化前期（7～8日）
昼の温度	25℃以下 ※30℃を超える時はこまめに換気する。	
夜の温度	10℃以上 ※5℃以下の低温が予想される場合はハウス内の保温に努める。	
かん水	・搬出時に覆土を落ち着かせる程度 ・ハウス搬出後は、水不足や高温による葉ヤケに注意	・床土の乾きに応じてかん水を行う ・水のやり過ぎに注意（カビや病気の発生を助長、根の伸びが悪くなる）
	・床土によって水持ちや乾き方が異なるので、床土を変更した場合は注意	

注) ハウス搬出後は、寒冷紗等の被覆資材で2～3日遮光を行い、苗の白化を防ぐ。